



No.115

窓の市政

「全力を傾注」

わが国で新型コロナウイルスの感染が確認されてから1年がたちましたが、感染拡大が収まることもなく、第3波の局面を迎え、日ごとに新規感染者数を更新しており、このままでは医療崩壊が必至となっています。

ウイルスに関する内容を記しており、まさに新型コロナウイルス感染拡大防止対策に翻弄された1年であったと改めて認識しました。

また、広報そうさであります。毎年2月号は新成人を祝う華やかな式典の様子と、りりしい消防出初式の写真で構成されておりましたが、今年2月号の編集には、広報担当者も苦慮したことと思えます。

新成人の皆様には、新たな門出をお祝いする式典を開催することができず、主催者として断腸の思いであります。改めまして新成人の皆様方の前途洋々たる船出を祝福いたしますとともに、厳しい時代に打ち勝つたくましい社会人として活躍されますよう心からご祈念申し上げます。また、

ご家族ご両親をはじめ関係者の方々には、このたびの式典中止に当たり多大なるご理解を賜り、心から感謝申し上げます。

コロナ禍で新生活様式や勤務体制の変革が求められる、教育面でも、小中学生に1人1台のタブレット端末を配備し、オンライン授業へと進むなかにおいて、私たちの仕事や会議なども書面による表決が多い1年でありましたが、当面の間、千葉県市長会の役員会などがウェブ会議で開催されることとなりました。

これを機に、私の1年間を振り返るべく広報そうさに掲載した「市政の窓」を再読したところ、毎月のように新型コロナ

不慣れではありませんが、新たな対応にもしっかりと取り組んでいくとともに、新型コロナウイルス感染症の収束に向け、早期のワクチン接種に全力を傾注していく決意であります。

「山桑の稲荷神社で昨秋に収穫された稲わらを使って8mに達する大注連縄を結び上げる『綱かけ神事』は、『広報そうさ』(平成31年2月号)に「山桑の稲荷神社で昨秋に収穫された稲わらを使って8mに達する大注連縄を結び上げる『綱かけ神事』は、『広報そうさ』(平成31年2月号)に

「山桑の稲荷神社で昨秋に収穫された稲わらを使って8mに達する大注連縄を結び上げる『綱かけ神事』は、『広報そうさ』(平成31年2月号)に

「山桑の稲荷神社で昨秋に収穫された稲わらを使って8mに達する大注連縄を結び上げる『綱かけ神事』は、『広報そうさ』(平成31年2月号)に

「山桑の稲荷神社で昨秋に収穫された稲わらを使って8mに達する大注連縄を結び上げる『綱かけ神事』は、『広報そうさ』(平成31年2月号)に

山桑を歩く

綱かけ神事

匠瑳探訪

177

昨年来の新型コロナウイルス感染拡大の影響で、正月の伝統行事の実施が気掛かりでした。

山桑(匠瑳地区)の「綱かけ神事」は、『広報そうさ』(平成31年2月号)に「山桑の稲荷神社で昨秋に収穫された稲わらを使って8mに達する大注連縄を結び上げる『綱か

け神事』が行われました。完成した注連縄は神社正面の鳥居につるされ、家内安全や無病息災を祈願しました。」と紹介されています。

筆者が初めてこの行事を見たのは昭和40年代半ば、50年ほど前になります。当時は朝8時半ごろから当番の家で作り始め

4時間ほどかけて完成した綱を鳥居前の大木につるしました。当時、この行事に呼び名がなく当番の人たちと「綱かけ神事」とすることにし、紹介しました。それは片子(飯高地区)で寺境内の大木につるす「盆綱」

とイメージが重なったことによりです。綱の形は当時と変わりませんが、戦前までは完成した綱を拝殿前に掛けておき、それを集落の子どもたちが村中を引き回したと聞きました。千葉県立大利根博物館の『調査研究報告(第7号、平成9年発行)』で秋山笑子氏がこの行事を詳しく報告しています。

同氏は綱を蛇か龍として作る手順も掲載され、わざわざ蛇を作る行事は県内35カ所において、調査時では28カ所で行われていたと報告されました。香取海浜地域では、多古町の2カ所と本市の山桑と時曾根(豊栄地区)の「大蛇まつり」が取り上げられています。

稲荷神社は「八社参り・長路コース」に組み込まれ、新年に掛け替えられるので、年中見ることができます。

(市文化財審議会委員・依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班

☎73・0080



稲荷神社の注連縄

文芸コーナー

短歌

依知川雅一 推薦

寒空に春を待ちたる強き持ち

銀杏の裸木りんと立ちたり

宇野とし子

隣室にテレワークする娘の声の

違ういち面に頼もしさあり

伊藤 英子

南天の輝く赤き実誘われ

鳥が啄み賑やかになる

古谷由美子

マスク着けパークゴルフを教え合う

夢老人の絆は深し

大木 洋一

収束を願いつめくるカレンダー

会えずに孫は二〇才となりし

木下 昌子

杓寿まで生きて重ねた祖母のしわ

ババいつ起きる呟く孫が

小川 一夫

使われぬ言葉はすぐに死語となる

早く無くなれ「コロナウイルス」

鈴木 志子

川口城司 推薦

七十歳初日を待てば地層群

輝き立てる刑部岬は

石田 治

声あげて笑ひるしかどいつしらに

深まる老いをしみじみ語る

稲葉 雪子

俳句

高安せい子 推薦

どこまでも空あおおおと大旦

去年今年コロナ収束のみ祈る

光瀬甲子

太箸の若き人盛る白き指

障子貼り済ませ明かるき座敷かな

岩井 やす

冬椿恩師の部屋に通さるる

侘助の花のかすりの百態に

榎名 晴江

瑞々し満月出づる暮れの里

里帰り土産は角の柚餅子かな

安藤 建子

ふるさとの財をあつめた雑煮かな

老夫婦はり切つてまく福は内

大川 宣子

川柳

勝又康之 推薦

霜の朝マスクは顔の防寒具

こたつから猫も寒くて出られない

須貝 玉枝

竜宮の土産の宝黒い砂

健康で暮らせることにありがとう

春日 政彦

菜園のあたり一面霜柱

ニワトリも三密避けてマスクする

佐久間美智子

コロナって油断をしているヒトが好き

江波戸京子

川口城司 推薦

力作募集中

宛先：匝瑳市秘書課広報広聴班 〒2289-2198 匝瑳市八日市場ハ793番地2
☎73・0080 FAX72・1114



図書館だより

図書館ホームページはコチラ
<https://www.library.sosa.chiba.jp>



- 休館日…毎週月曜日 ● 臨時休館日(蔵書点検のため)…3日(水)～7日(日)
- 祝日開館日…11日(木)・23日(火) ● 八日市場図書館 ☎73-3746 (17時まで)

蔵書点検とは

図書館では毎年、蔵書点検を行っています。蔵書点検とは、お店という「棚卸し」のことです。本一冊一冊を点検することで、「返却ミスはないか」「紛失している資料はないか」「資料が別の棚に並んでいないか」などを確認し、図書館を最適な状態に保ちます。

※蔵書点検後、例年行っている雑誌のリサイクルは延期します。

返却ポストをご利用ください

休館中、本・雑誌の返却は「返却

ポスト」をご利用ください。
DVD・CDなどの資料は、破損の恐れがあるため、開館時間中にカウンターへ返却してください。

感染症予防にご協力ください

現在、図書館では、感染症予防対策を行いながら、9時から17時まで開館しています。貸し出し・返却のほか、長時間の滞在はできませんが、閲覧も可能です。入館の際に、検温、受け付け、マスクの着用などお願いしています。また、貸し出し袋の使用を休止していますので、マイバッグをご持参ください。

おすすめの本

『シリアで猫を救う』

アラール・アルジャリール、ダイアナ・ダーク／著
大塚敦子／訳 講談社

シリアに生まれた著者は、内戦が激化するなか、負傷者の救出や取り残された猫たちの保護活動を始めました。人や猫たちの命を守る活動を通じて、シリア内戦の現実を伝えます。

『猫のいる家に帰りたい』

仁尾智／短歌・エッセイ
小泉さよ／イラスト 辰巳出版

何匹もの猫と関わってきた“猫歌人”の作者による、猫の短歌・エッセイ集です。猫と暮らしている人もそうではない人も、思わずクスッと笑ってしまいます。